

第23回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会

佐賀県帯同審判レポート

佐賀県バスケットボール協会 審判委員 中村洋介

日時 平成22年3月27日～30日

場所 東京体育館 ほかに近県体育施設

日程 27日 審判研修会・審判会議

28日～30日 本大会

・審判研修会（東京体育館）

午前 講師4人に参加者が分かれて付き研修

午後 モデルゲーム（近県高校生のハーフゲーム）

審判会議・割り当て発表

・本大会1日目（東京体育館、ほかに近県体育施設）

・本大会2日目（東京体育館）

・本大会3日目（東京体育館）

男子優勝 福岡県 準優勝 東京都A

女子優勝 福岡県 準優勝 愛知県

男女決勝は上級審判（AA級）による、3メンレフリーで行われました。

研修会

4名の講師に研修生がグループに分かれて研修を受け、私はCコート（田中光夫氏）の研修を受けました。

内容 エリア1・3からの1ON1

2ON2（左右）

3ON3（フリー）

モデルゲーム

リードレフリー・トレイルレフリーの位置取りからムービング。

それぞれのエリアのスペーシングおよびペネトレイト。

ボール・オフボールを効率よくボクシングインできる位置取り など

レフリー4原則を中心にしたレクチャーでした。

平成 22 年 3 月 27 日

於：東京体育館

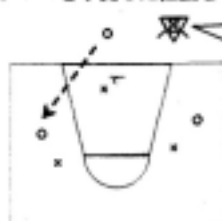
ジュニアオールスター 2010 審判研修会 全体講義（レクチャー）内容

《Aコート》 講師：岩田 千奈美氏

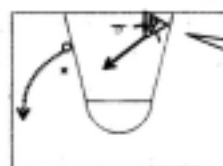
実技内容①：エンドスローからオールコート 3 on 3 (3 on 3 に対して二人でみる)

《課題》

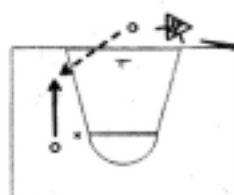
- (1) スペースのとりえ方
- (2) 目の前のスペースから次のスペースへの位置取り
- (3) 次のプレーを予測した位置をつかむ



《ボールを渡したときのプレイヤーの見方》
・相手審判を見ながら逆サイドのプレーを見る
・ボールを手渡す前からプレーを予測する
・ボールだけを追わず、レシーバーをさがす



ドリブラーを追う時についても
そのレシーバーを予測しさがす。

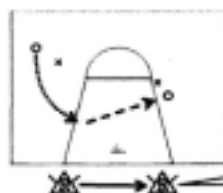


スローインのボールに対し、向かってくるプレイヤー
はトレイルが責任を持って判定する

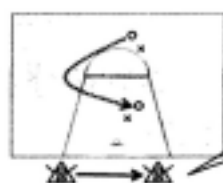
実技内容②：ハーフコートの 3 on 3

《課題》

- (1) ドリブルなのかパスなのかを早く判断する（ディフェンスのシフトをみて予測を立てる）
- (2) 誰がレシーバーなのか
- (3) 最後がブラインドにならないようスペースをとらえる（リードの意識）



レシーバーがボールを受ける前に移動する



次を考える、見えなくなる前に動く

シュート後、すぐにリバウンドの位置へ。特にリードが逆サイドを見に行った場合は素早く戻る。



実技内容③：4on4（ポストプレイのとりえ方）

- ・パスした後も目を残す
- ・3番エリア、6番エリアはリードが責任を持ってとらえること
- ・ゴールに向かうプレイヤーに責任を持つ
- ・逆サイドのプレイヤーの動きによって下がるのか上がるのかを判断する
- ・オフバールへの視野の持ち方

◆まとめ

- ①スローインの時の目の当て方
- ②プレーの始まりをとらえ、よい位置をとる
- ③先を読む、レシーバーをさがす
- ④何かしごだわりを持つ（1試合通して）
- ⑤どのピリオードでも同じ状態を保つ

《Bコート》 講師：大野 健男氏

◆実技前確認事項

プレーの判定

しっかりと確認して判定をする。そのためにいかにスペースをとらえられるかが重要となる。公認レベルでは接触の場面しかとらえられない場合もあるがA級なら、接触の前からオフェンスとディフェンスの位置取りを確認し長くプレーをとらえて接触を判定する必要がある。

ヴァイオレーション

- ・トラベリング・・・トラベリングは厳しくなっているのではなく、見極めができていない審判が多いので見極めましょうということ。特にミートと突き出しについて。
- ・パーミング・・・ドリブルを強くついているから手に取まっているのか、ドリブルが弱くてボールを持ってしまう、もしくはパスをしようとしたができずにまたドリブルをついたのかなどいろいろなケースがある。すべて鳴らすのではなく、選手のドリブル、パスの技術を見極めて判定すること。

ファール

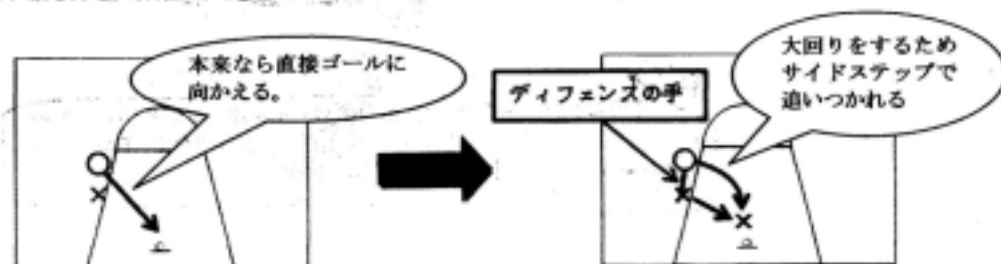
- ・ノーマルバスケットポジション
 - ・シリンドー
 - ・リーガルガーディングポジション
- } この3つが理解できていれば判定に困ることはない。

ボールをコントロールするプレイヤーはいつでも守られる可能性があるのでリーガルガーディングポジションをとられたらよける義務がある。

ボールを持っていないオフェンスプレイヤーはボールにプレーするのでリーガルガーディングポジションをとっていたとしてもそのオフェンスプレイヤーがよけられなければディフェンスプレイヤーに責任があることになる。よけられる、よけられないといった判断自体がその人のバスケットボール観である。見ている人全員に違和感があるのならそのバスケットボール観は見直した方がよいことになる。

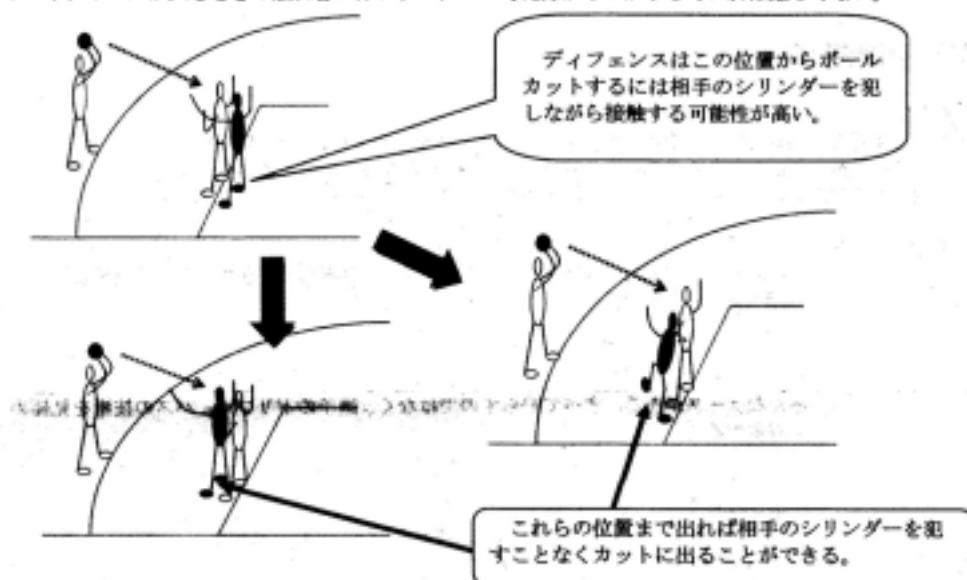
ファウルケース①

プレイヤーが直線的に動こうとした時、手を使って大回りをさせられるとサイドステップでリーガルガーディングポジションをとられるため、最終的な接触合いはオフェンスに責任があるように見える。これを防ぐために動き方を試行錯誤する。



ファウルケース② (ポストアップ)

ポストにボールが入るときの触れ合いはシリンドーの考え方がしっかりしていれば難しくない。

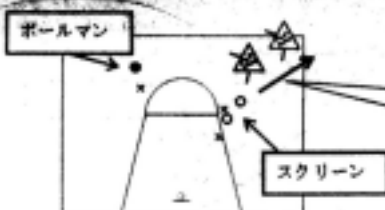
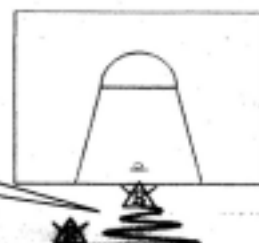


◆実技内容に入る前の注意点

- ・プレーをとらえようと考えながら位置取りを意識していてもブラインドになるケースが出てくる。大切なのは一度、確認できなかったケースを二度と繰り返さない意識を持つこと。
- ・シュートをしっかりと見る。

実技内容①：ハーフコート 5on5

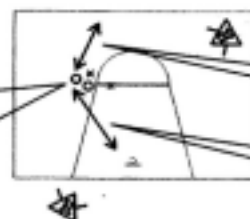
左右に動いているうちにふり幅がだんだん少なくなってきて真中にステイしてしまうケースがあるので気をつける。



左右に動いてボールを持っているプレイヤーのスペースをとらえるだけでなく、下がって見ることも時には必要。

《UCLAカット》

- ・ブラッシング、ファイトオーバーなど判定する材料を持っているかとトレイルとリードの受け渡し重要。



ここまではトレイル

ここからはリード

《Cコート》 講師：田中 光夫氏

実技内容①：エリア3からの1on1

(ア) ベースドライブからジャンプショットのケースをリードレフリーのみ設定

(イ) ベース or ミドルドライブからのケースをリード・トレイル設定

<田中氏>

- ・ドライブからジャンプショット
 - ・ドライブからパス
 - ・ドライブからストップ、ピボット・・・等の準備
 - ・さらにショット後のリバウンドの準備
- } いろいろな「次」を想定して準備をしてください。

・もとをいえば、エリア3でボールミートした時点でディフェンスのスタンスや角度からドライブの方向を予測すると少しでも位置を変えておくことができる。

・リードレフリーがドライブのスペースをとらえながらコールしたときは、その現象がおきた場から離れないこと。

・スペースをとらえる努力をしてもどうしてもブラインドになることもある。そのときはそのブラインドをそのままにせず、ズレることができるかが重要。

<玉木氏>

・ボールがクリアーに見えていることがスペースをとらえていることと錯覚し安心してしまうことが多い。安心すると動かず足も止まります。見極めたいのは身体の接触です。

実技内容②：エリア1からの1on1

(ア) ベースドライブからのケースをリード・トレイル設定。

(イ) ベースドライブ（ダブルチェンジ）→ミドルドライブのケースをリード・トレイル設定。

<田中氏>

- ・トレイルの動きでWコールにできる。
- ・トレイルが下りることはしても踏み込むことが少ない。

実技内容③：2on2（左右）

<田中氏>

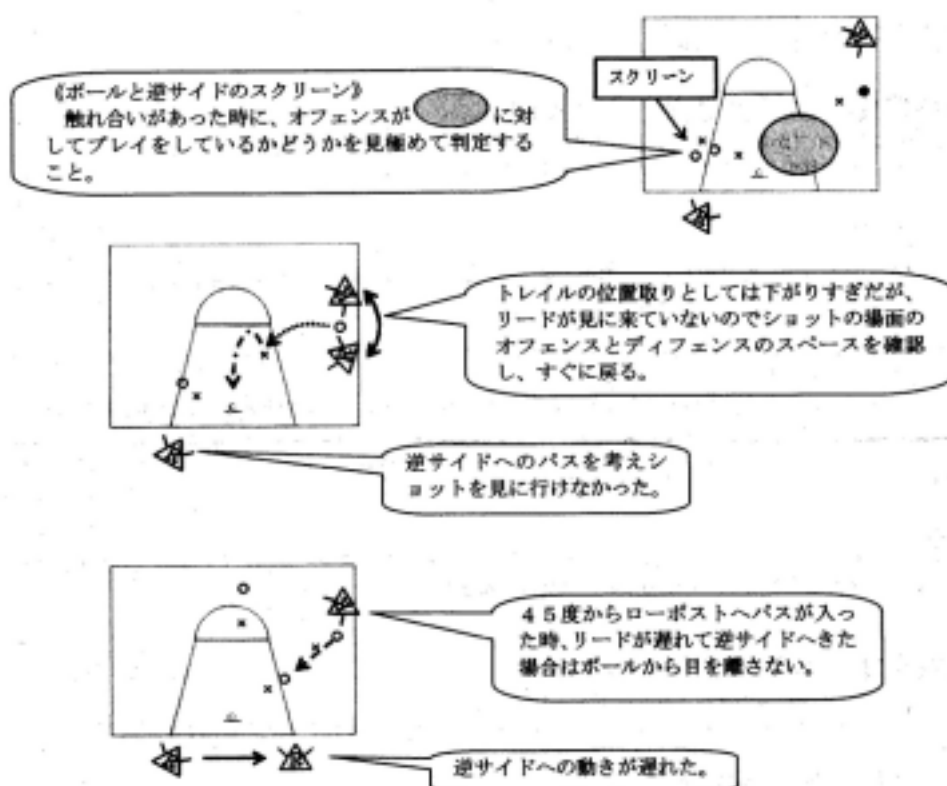
- ・2on2にはポストプレイやスクリーンプレイが出てくる。
- ・その準備や予測を二人のレフリーで見ている。
- ・左エリアでの2on2はトレイル中心の判定になりがちだが、そこでリードがどう感じて動いていくかが大切。
- ・例えば、エリア6にポストマンの1on1が始まりそうなとき、ボールが入る前に右に動いているか？
- ・左エリアでの2on2ではエリア3にボールが入ったときにトレイルがきちんととらえているかが大切。エリア3からの台形でのポストアップに対するとらえもトレイル。

実技内容④：フリーで3on3

まとめ

<田中氏>

- ・コート上でやることはたくさんあります。
- ・ボールにすべて反応するわけではないが、自分のエリア（判定）については責任を持って。
- ・リードレフリーは膝を曲げて準備。
- ・レフリーは二人でやっていることを意識。
- ・無駄なことはどんどんやっつけて下さい。それを削ることは可能です。しかし、不足しているものを付加していることは大変なことです。



実技内容②：オールコート 5 on 5

まとめ

- ・ A級は常にみんなの教科書だということを意識して、審判活動に取り組んでください。

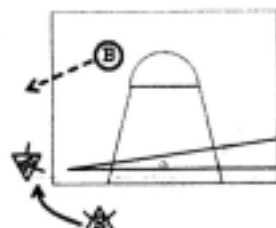
《Dコート》 講師：平 育雄氏

テーマ：スペーシング

レフリーはリアルタイムで判定することが最大の仕事である。ファウルだったという過去形の判定は絶対にあってはならない。

お互いのプレイヤーが何をしようとしているのかを平等・公平に見ることができる位置に行くことがスペーシングである。その位置に早く行くこと、早く行く意欲を持つことが必要である。

③サイドラインから出たボールのジャッジ



- ・サイドラインまで行ってコールする。
 - ・コート内を見る。
 - ・ボールから目を切る。
- スペーシングにつながる

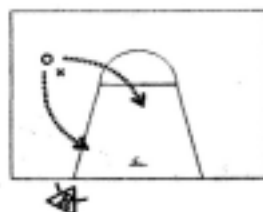
③45度からの1on1

①エンドライン方向へのドライブからのジャンプシュート



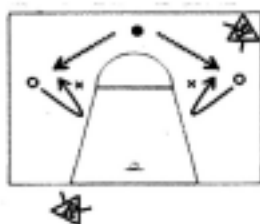
- ・シュートはどこから始まり、どこで終わるのか。シュートが終わるまで見ておく必要がある。
- ・一人がシュートを見れば、もう一人はリバウンドを見る。→これが協力
- ・シュートしたボールを見ない。
- ・リードはコートに入らないようにする。

②左右両方向へのドライブ

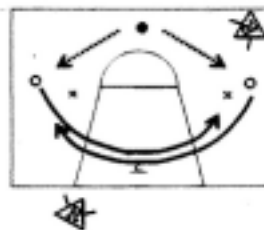


③左右45度の2on2

①定位置から

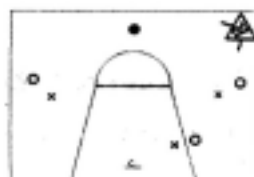


②スイングから



- ・3番エリア、トレイルはまず確認をしに行く。
- ・トレイルがサイドラインに沿ってエンドライン方向に下がりすぎると見えるものが少なくなってしまう。ゴール方向に行った方が見えるものが増える。→ベネトレイト
- また、下がりすぎると、ブレイクに対して遅れてしまう。リードになった時にプレイヤーと並走したり、遅れて後ろから見たりすることがないようにする。遅れてスタートしてしまってもあきらめずに先行し、ブレイを受けて見る位置取りをする。
- ・②のシチュエーションでは、リードはスイング時のスクリーンプレイを見る。

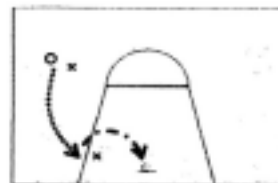
◎左右45度とセンター 3on3



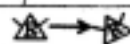
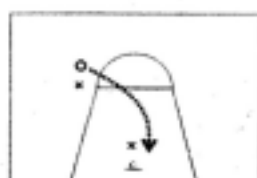
- 課題① どんな場合でも、2秒間に一回はセンターの
マッチアップから目を離さない。
課題② 右45度のプレイヤーから目を離さない。

◎右45度からドリブルしてジャンプシュート

- ・スペースをとらせるだけでなく、ディフェ
ンスの顔が見える位置取りをする。



◎右45度からのドリブルレイアップシュート



- ・早くこの位置に動き、ディフェンスの顔を見る。

※確かにファウルではないことを確認しに行くのがレフリーの努めである。

佐賀県帯同審判として2度目の参加でしたが、今回も多くを学ぶことができました。
本大会では、三重県一宮城県（女子）の割り当てで、現在の出来ることは出せたと思いますが、まだまだ理解を深めなければならないことが沢山あると感じました。
このような経験を県内大会においての活動に生かし、佐賀県審判および競技力向上に役立てるように活動していきたいと強く感じました。

佐賀県バスケットボール協会 審判委員 中村洋介